

医薬保健学域 保健学類 理学療法学専攻
【授与する学位】 学士（保健学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
医薬保健学域は、高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質〔Quality of Life(QOL)〕を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。保健学類は、保健学における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、豊かな人間性と高い倫理観を備えた高度な医療人としての看護師・保健師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士を養成するとともに、保健学の発展を担う教育研究者を養成する。また、医療人としての社会的使命感を涵養し、現代社会及び将来の保健・医療・福祉における諸課題を探索し解決できるような、総合的で学際的な保健学の能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】
<p>保健学類</p> <p>保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（看護学）、学士（保健学）の学位を授与する。</p> <p>理学療法学専攻</p> <p>神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術学を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダーの人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学修成果（下記【学生が身に付けるべき資質・能力】参照）を上げることが求められる。</p>	<p>本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。</p>	<p>保健学類</p> <p>保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とする。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成である。</p> <p>保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、診療放射線技術学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設ける。</p> <p>理学療法学専攻</p> <p>理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野である。種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼吸器などの機能が低下したり損傷を受けた人に対して、運動療法や物理療法を駆使して治療に当たる。理学療法学専攻では、理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践的に修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成する。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得することができる。</p>
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
<p>1.保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常な身体機能を理解し、起居移動動作と身体運動とを関連して理解する。 ・ 運動機能・知的機能の正常な発達を理解する。 <p>2.医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する。 <p>3.医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法学の概念と役割、展開方法を理解する。 ・ 地域ケア活動の基本的な概念、展開のための能力を修得する。 ・ 保健医療福祉の推進のために理学療法士が果たす役割を理解する。 <p>4.専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価の概念を理解し、評価技術・技能を修得する。 <p>5.幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動器疾患・神経疾患・内部疾患に対する理学療法に関する知識・技術・技能を修得する。 ・ 基本動作能力・移動動作における身体運動のメカニズムについて理解する。 ・ 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する。 ・ 臨牀的観察力・分析力、治療計画立案能力・実践力を身につける。 <p>6.英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内及び国際性の高い臨床・研究の知識・技能を修得する。 ・ 理学療法を推進するための知識・技術・技能を統合する。 	<p>1.教育内容</p> <p>共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学修後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は低学年から4年生まで段階的に配置し、学生の知識や技能に応じた臨床実習を展開している。</p> <p>2.教育方法</p> <p>理学療法学専門科目では、講義、演習および実習を組み合わせることによって、単に知識の修得あるいは単に技術の修得とならないように、治療理論に基づいた治療技術を学生が主体的に学修できることを目的に授業を展開している。また、臨床実習は低学年から段階的に配置し、学生の知識や技能に応じて施設見学、理学療法部門見学から始まり、3年生後半では評価実習を経験させることにより対象者の状態把握を学ばせた後、4年生前期で「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を修得すること」を目的に病院等での臨床実習を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人 ・ 社会のニーズに応え、努力を惜しまない人 ・ 理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人
	【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】
	<p>(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。</p> <p>(2) 学士課程での学修成果は、「卒業論文」を含めた修得単位数によって行う。</p> <p>(3) 卒業論文の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。</p>	<p>■一般選抜</p> <p>基礎学力に加え、理科及び英語の学力を重視する。理学療法学・作業療法学は2専攻併願で実施し、出願時に第2志望の専攻まで選択することができる。</p> <p>■ KUGS特別入試（学校推薦型選抜）</p> <p>基礎学力に加え、口述試験で医療人としての適性の評価並びに調査書等の出願書類による総合評価をする。</p> <p>■ 帰国生徒選抜</p> <p>理科と英語の学力に加え、成績証明書（調査書）による総合評価をする。</p> <p>■ 国際バカロレア入試</p> <p>口述試験により理系能力及び医療人としての適性の評価並びに提出書類（志願理由書）等による総合評価をする。</p> <p>■ 私費外国人留学生入試</p> <p>学力検査により本学類の修学上に必要な基礎学力を有しているかを評価し、口述試験を通じて、志願者の日本語能力（対人コミュニケーション能力を含む）、英語能力及び本学類で修学することや医療人として職務を遂行することの適格性及び適性を評価する。</p>
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】
		<p>高等学校までに学ぶ国語、社会、数学、理科、英語について十分な基礎学力を身につけておくことが重要である。</p>